

深江丸による神戸港ミニクルーズについて

個人会員 田中 博

先般、6月9日・10日に開催された神戸大学海事科学部の学園祭、深江祭において附属練習船、深江丸が9日は内部の一般公開、10日は一時間半をかけての乗客定員100名の神戸港内クルーズが3回開催されました。ローカルな話題ですが学会員には卒業生の方もおられるはずですので簡単な写真を添えてレポートいたします。

深江（ふかえ）とは本学の所在地、神戸市東灘区深江南町がある地名です。深江は東灘区のもっとも東側に位置し、その東側は海技大学がある芦屋市になります。まだ一角には洋風の住宅も残る住宅地ではありますが、昔は漁港だった深江港も現在は広義の神戸港の東に位置し、その沖には鉄鋼と食品関連の工場や公設市場がある埋立地があり現在も内航船が停泊しています。深江丸はキャンパスのグラウンド内の南、海側に係留されています。キャンパスのすぐ西側は住所表記は青木（おうぎ）となりますが飛行艇の製造場所でもある新明和工業の江南工場、さらにその西側は現在はショッピングゾーンとなっていますが以前は神戸港のフェリーの発着場であった東神戸フェリーターミナルがありました。キャンパス内には神戸大学大学院海事科学研究科海事博物館（通称：神戸大学海事博物館）もあります。深江丸のスペックなどは <http://www.edu.kobe-u.ac.jp/gmsc-fukaemaru/> をご覧ください。

合併して総合大学の一部門となったとはいえ、海事科学部キャンパスが他学部から離れていることもあり深江祭はこじんまりした規模でした。たぶん所属の学生は全員参加、来場者もOB以外は大半が在校生の親族、ごく一部が船好きの人が来場していたと思われます。乗船チケットは当日に先着順にて配布。深江丸以外では大型クルーザーヨット（44.2 ft）、カッター、面白いところでは伝馬船の試乗も開催されました。



深江丸 画面左側の朱色のマストは進徳丸メモリアル

巡航コースは、阪神高速5号湾岸線の東神戸大橋の下を南下し、右手に日本酒で知られる魚崎の沖に作



られた人工島の海自阪神基地隊を見ながら六甲アイランドフェリーターミナルを通過。阪九フェリーの やまと（神戸ー新門司）、フェリーさんふらわあの さつま1（神戸ー大分、※同船は日本での運航が神戸別府航路が最後となり、終了予定2018年8月末までの限定運航で、神戸別府航路、古き良き街「別府」へ、さつま1で行く弾丸プランが運行、<http://www.ferry-sunflower.co.jp/news/article/satsuma1beppu.html>）が停泊中でした。

る魚崎の沖に作られた人工島の海自阪神基地隊を見ながら六甲アイランドフェリーターミナルを通過。阪九フェリーの やまと（神戸ー新門司）、フェリーさんふらわあの さつま1（神戸ー大分、※同船は日本での運航が神戸別府航路が最後となり、終了予定2018年8月末までの限定運航で、神戸別府航路、古き良き街「別府」へ、さつま1で行く弾丸プランが運行、<http://www.ferry-sunflower.co.jp/news/article/satsuma1beppu.html>）が停泊中でした。



海自阪神基地隊



六甲アイランド（通称 RIC）の北東角に位置するフェリーターミナル さんふらわあ さつま1 と やまと

同ターミナルはもう一社、四国開発フェリー（オレンジフェリー、夜間発着の神戸ー新居浜東港）が利用しています。

六甲アイランドの端を右にむけ旋回し西へ進む。海上文化都市と自称している？神戸市株式会社と揶揄された人工島のコンテナ基地などを右にのぞむ。このあたりは釣りのための渡船に乗らないと一般人は眺められないところです。



RIC 南岸から北の六甲山系を望む

ポートアイランドの手前で左へ。神戸港の神戸ポートターミナルに発着する客船の乗客の目に入る光景です。貨物基地ばかりで六甲の山並みがなければ美港どころではありません。神戸空港の進入路の下あたりで東進し、再び深江に戻りました。船内ではもちろん諸設備の説明などもおこなわれました。



ポートピアアイランドの入り口、中央右奥の赤い橋あたりがクルーズターミナルからポートアイランドへ渡る神戸大橋



RIC 沖で稼働している「大阪湾フェニックス計画」の一つ神戸沖埋立地処分場。近畿2府4県の198市町村のうち168市町村からの廃棄物を海に埋め立てる。埋めた土地は分譲し費用を回収するという計画だったが・・・



右側は六甲アイランドのコンテナ基地

海の日という祝日まで設けている日本ですが、海事セクターから一般への働きかけが弱いのか、職種が現代においては魅力が少ないものになっているのか？関係者はもっと船や海事の魅力をもっと具体的に世間に知らしめていかない限り、船や海運の魅力を知る人は減少の一途となるのでは？と再認識した試乗会でした。また以前から気になっていたことですが、シラバスを調べた範囲ですが、東京海洋大学も含めいわゆる商船大学系では客船の接客に関する講義は行われているのか？が気になりました。船舶の運行に関する知識と実技を学ぶことが主目的の学校でしょうが、貨物だけではなく、感情のある生きている人間を接客しながら運ぶという事に関し、たとえ単位にならず必修科目でなくても、客船についての概論程度は商船学校で学ばせるべきだと考えます。接客業務はフィリピンなどの労働者が担当する仕事だと誤解されておられないか？日本船の人的クオリティー向上のためにもサービスの教育は必要だと考えます。



今回の乗船航路



キャンパスに隣接する新明和工業

せっかくだから深江近辺のローカルな話題をいくつか。

深江キャンパスの前を通る国道43号から少し山側に入った保育施設の庭には crow's-nest と帆がついたマストを模した遊戯設備が設置されています。幼児教育に船のデザインが使われています。素晴らしいことです。



左は保育施設にある疑似マスト。右は深江キャンパスに保存されている練習船、進徳丸のメモリアルのマスト。

また阪神電鉄本線は現在、住吉と芦屋間の高架への工事が進行中で大阪から三宮方面の線路は高架への切り替えが完了し、キャンパス側、海側の駅舎も完成に近い外観になっています。この駅舎の外形デザインは、説明によると神戸高等商船学校の練習船として使われた進徳丸(しんとくまる)をイメージしたものとのこと。震災で甚大な被害を受けた阪神電鉄ですが、再建のため事実上新築されたいくつかの駅舎は、機能だけでなく美的感覚に秀でたデザインを採用しているものが多く、以前の野暮ったい電鉄というイメージは完全に払拭されています。



芦屋の埋立地のマリーナのすぐ近くに、会員制のリゾートホテルができていますが、その外形デザインは船の上部構造物をスマートにしたようなもので、神戸港中突堤旅客ターミナル・メリケンパークオリエンタルホテルの建物をさらに先鋭化したような目を引くデザインです。力学的に美しい船のデザインは建築家も意識しているようです。



埋立地の人工島、芦屋市海洋町に建設されたリゾートホテル。運営は東京、芦屋の当物件に続き、愛知県蒲郡市、横浜市みなとみらいにも海辺にリゾートホテルを展開予定の会社です。富裕層の取り込み競争は激化しそうでクルーズ船もサービス業としての実力を問われそうです。(深江丸より遠望)

2018年6月13日